

モノづくりを考える! 第52回

ありがとうございます

マツヤ産業株式会社 東大阪市西堤学園町1-1-19



マツヤ産業（株）は産業ガス・高圧継手・配管部品などの販売と商社機能を持つ。創業者の孫で現相談役の玉西敏雄氏から創業以来百年を超えたマツヤ産業のお話を伺うことができた。敏雄氏は1970年代、ガ

ス・溶材・溶接機器にとどまらない商材の開発を担当し、継手を扱うことになった。工作機械メーカーに飛込営業をかけるが、なかなか受け入れて貰えず、考えた末、配管を曲げ加工してその両端に喰い込み継手をつけて納入することを提案した。

「お役に立つことは何か」をいつも思索し、事前の組み立てやプラモデルセットのように一台分をキットにまとめて納める配膳納入なども提案した。それが採用され受注が増加し、配送の効率化のために伊賀事業所を開設した。「本足打法」に陥らないように、消防車・塵芥車などの特殊車両への販路を拡げた。また、配膳納入は経営革新計画承認企業となるきっかけにもなり、資金調達や販路開拓の支援を受けることができた。顧客の要望、社会の要請を見て一歩先に目を向け動く。

マツヤ産業を成長させたものは何か、との問いに敏雄氏「陰徳」と断言する。それは創業者、二代目の「陰徳」をもらってきたからだという。創業者玉西義雄氏は大正の終わりに溶接加工を始めた。溶接には酸素ガスが必要であったが、供給は軍需産業や大手企業が優先され、零細企業には廻ってこなかった。そこで酸素ガス製造の会社を設立し、中小零細企業が立ちいくようにした。戦後はダム建設現場に酸素を供給する会社も立ち上げた。義雄氏は業界のために働き、長男義郎氏は家業に専念する

もやがて請われて業界の理事長を引き受ける。一族は関係する業界の、地元東大阪のためだけでなく、広く社会のために貢献してきた。対価を求めない動きを代々続けている。

創業者の死後2年目に生を受けた現取締役社長玉西陽二氏はICT化、ロボット

の導入、環境整備に取り組み。陽二氏の「私たちは『ありがとう』を事業活動で表現するために存在します」とは創業者の思いを具体化した言葉である。「来る人来る人福の神」の額に見送られながら社を後にした。

マツヤ産業
公式WEB